

第71回滋賀県中学校夏季総合体育大会 第71回滋賀県民体育大会

軟式野球の部

3



【会 期】 平成30年7月21日（土）～30日（月）

【会 場】 草津グリーンスタジアム
守山市民運動公園野球場
高島市新旭町森林スポーツ公園野球場
甲賀市民スタジアム
近江八幡市民運動公園野球場
荒神山公園野球場
浅井球場

【主 催】 滋賀県中学校体育連盟、滋賀県体育協会
滋賀県教育委員会、各市町教育委員会

【主 管】 滋賀県中学校体育連盟軟式野球専門部

【夏季大会歴代優勝校】

西暦	回	優勝校	西暦	回	優勝校
1948	第1回	皇子山中学校(1)	1983	第36回	聖徳中学校(4)
1949	第2回	草津中学校(1)	1984	第37回	能登川中学校(5)
1950	第3回	聖徳中学校(1)	1985	第38回	中主中学校(1)
1951	第4回	長浜西中学校(1)	1986	第39回	八幡東中学校(1)
1952	第5回	栗津中学校(1)	1987	第40回	打出中学校(2)
1953	第6回	長浜西中学校(2)	1988	第41回	栗東中学校(3)
1954	第7回	草津中学校(2)	1989	第42回	聖徳中学校(5)
1955	第8回	木之本中学校(1)	1990	第43回	石部中学校(1)
1956	第9回	栗津中学校(2)	1991	第44回	長浜東中学校(1)
1957	第10回	栗津中学校(3)	1992	第45回	野洲中学校(1)
1958	第11回	皇子山中学校(2)	1993	第46回	水口中学校(2)
1959	第12回	聖徳中学校(2)	1994	第47回	甲良中学校(1)
1960	第13回	日野西中学校(1)	1995	第48回	彦根東中学校(2)
1961	第14回	栗津中学校(4)	1996	第49回	志賀中学校(1)
1962	第15回	八幡中学校(1)	1997	第50回	長浜南中学校(1)
1963	第16回	草津中学校(3)	1998	第51回	玉園中学校(1)
1964	第17回	長浜西中学校(3)	1999	第52回	打出中学校(3)
1965	第18回	彦根南中学校(1)	2000	第53回	水口中学校(3)
1966	第19回	水口中学校(1)	2001	第54回	八幡西中学校(1)
1967	第20回	聖徳中学校(3)	2002	第55回	八幡西中学校(2)
1968	第21回	比叡山中学校(1)	2003	第56回	志賀中学校(2)
1969	第22回	打出中学校(1)	2004	第57回	安土中学校(1)
1970	第23回	守山中学校(1)	2005	第58回	真野中学校(1)
1971	第24回	彦根南中学校(2)	2006	第59回	八幡東中学校(2)
1972	第25回	栗東中学校(1)	2007	第60回	瀬田北中学校(1)
1973	第26回	松原中学校(1)	2008	第61回	比叡山中学校(2)
1974	第27回	能登川中学校(1)	2009	第62回	栗東西中学校(1)
1975	第28回	能登川中学校(2)	2010	第63回	湖北中学校(1)
1976	第29回	栗東中学校(2)	2011	第64回	長浜北中学校(1)
1977	第30回	能登川中学校(3)	2012	第65回	長浜北中学校(2)
1978	第31回	長浜西中学校(4)	2013	第66回	彦根中央中学校(1)
1979	第32回	甲西中学校(1)	2014	第67回	瀬田北中学校(2)
1980	第33回	彦根東中学校(1)	2015	第68回	瀬田北中学校(3)
1981	第34回	土山中学校(1)	2016	第69回	瀬田北中学校(4)
1982	第35回	能登川中学校(4)	2017	第70回	彦根南中学校(3)

大会役員

大会長	加藤 三男 (彦根西)		
大会委員長	保木 康宏 (明富)		
大会副委員長	杉本 宗男 (打出)	石脇憲一郎 (彦根東)	間所 忠昌 (虎姫)
総務委員長	高岸 宏之 (皇子山)		
総務副委員長	久保 護 (南郷)	倉 公一 (県立守山)	
	和田 憲幸 (城山)	川妻 弘之 (中主)	
競技委員長	木村 義宏 (瀬田)		
競技副委員長	筒井惣一郎 (稲枝)	西村 大地 (彦根東)	谷口 浩二 (五個荘)
	松宮 泰彦 (彦根中央)	安達 紀和 (船岡)	
広報委員長	三宅 草 (彦根南)		
広報副委員長	定光 重直 (松原)	藤井 哲也 (日吉)	所 雄大 (彦根西)
審判長	折井 重之 (草津)		
副審判長	門地 弘太 (堅田)	辻 顕史 (栗東)	
	岡野 有希也 (野洲)	虎山 駿太 (長浜西)	
審判員	各ブロック・各郡市代表 特別選出専門委員 審判委員 各校野球部顧問のうち、中体連軟式野球専門部主催の審判講習会を受講した者		

会場責任者校 (救護)

草津グリーンスタジアム：草津中学校
守山市民運動公園野球場：守山南中学校
高島市新旭町森林スポーツ公園野球場：安曇川中学校
甲賀市民スタジアム：水口中学校
近江八幡市民運動公園野球場：八幡西中学校
荒神山公園野球場：彦根南中学校
浅井球場：浅井中学校

補助役員

草津グリーンスタジアム：草津中学校 野球部員
守山市民運動公園野球場：守山南中学校 野球部員
高島市新旭町森林スポーツ公園野球場：安曇川中学校 野球部員
甲賀市民スタジアム：水口中学校 野球部員
近江八幡市民運動公園野球場：八幡西中学校 野球部員
荒神山公園野球場：彦根南中学校 野球部員
浅井球場：浅井中学校 野球部員

ゾーン責任者

会場責任者の他に、会場ごとにゾーン責任者を組み合わせ後に1名ずつ決める。
ゾーン責任者は会場責任者と協力して大会運営に当たる。

大会要項

1. 目的 この大会は、中学校教育の一環として技能の向上とアマチュアスポーツ精神の高揚を図る。また、心身ともに健康な中学校生徒の育成に寄与し、その相互の親睦も図る。
2. 主催 滋賀県中学校体育連盟、滋賀県体育協会、滋賀県教育委員会、各市町教育委員会
3. 主管 滋賀県中学校体育連盟軟式野球専門部
4. 会期 平成30年7月21日(土)～30日(月)
5. 会場 草津グリーンスタジアム 守山市民運動公園野球場
高島市新旭町森林スポーツ公園野球場 甲賀市民スタジアム
近江八幡市民運動公園野球場 荒神山公園野球場 浅井球場

6. 参加規定

(1) 滋賀県中学校体育連盟加盟校で、チームが本大会の登録を完了していること。ただし、次の条件を満たしていること。

- ・各校における選手および監督のチーム所属はひとつとし、他の野球チームに所属している選手の大会への出場は認めない。

所属の確認時期は、全国中学校軟式野球大会(全中)の参加規定に基づき、プロ編時とする。

*学校そのものが軟式野球連盟に所属している場合は同一のチームと見なす。

- ・本大会参加にかかわり、大会の途中棄権は認めない。

(2) 1チームは、学校長が参加を認めた者20名以内(スコアラーを含む)、部長(引率責任者)

1名、監督1名(部長及び監督は自校教職員または部活動指導員)とする。この他にコーチ1名を追加することができる。自校教職員でない者がコーチとなる場合は、学校長が認め、予め専門部が申請を受理した者に限る。自校教職員でないコーチのいるチームは試合前のメンバー用紙交換のときコーチ章を受け取り、コーチは試合中それを帯同すること。

(3) ベンチ入りは(2)以外に学校長も可とする。

(4) 本大会は、次のような手順で登録選手・出場選手を決定する。

① 事前に上記参加規定を満たした各校野球部員すべてを所定ファイルに入力し、担当者に送付することで登録完了とする。(5月31日〆切) この日までに登録が完了していない選手は、今大会に出場できない。

② 最初の試合当日に所定の登録用紙を提出する。この登録用紙に書かれた背番号1～20をつけ、その順番は原則としてポジション順とし、20名の選手を出場選手とする。主将は背番号を○で囲み、10番～20番については、投手・捕手・内野手・外野手として記入すること。

③ 試合前のメンバー用紙交換及び攻守決定の際に、登録用紙と共に背番号・氏名及び打順・守備位置・主将を正確に記入した用紙を4部提出し、審判員の点検を受けること。審判員は、メンバー用紙と登録用紙を確認すること。

※ 次の試合以降選手の変更がある場合は、前に提出した登録用紙に朱書きして訂正したものを再度各会場本部に届け出る。このとき背番号の変更は認めない。また、4回戦の出場選手を最終出場選手とするため、これ以降の出場選手の変更は認めない。

※ 出場校は3回戦までは試合終了後に登録用紙を再び預かり、次試合で再び提出する。

7. 競技規則

- (1) 2018年公認野球規則及び大会特別規定による。
- (2) 大会特別規定は別に定める。
- (3) 使用球は、ナガセケンコーB号球（中体連公認球）とする。
- (4) 用具・装具については、滋賀県中学校体育連盟軟式野球専門部発行の「中学校野球用具・装具規定」に適するものに限る。 くわしくは、本要項10項参照。
- (5) 試合会場の施設状況により、会場特別ルールを設定することがある。

8. 競技方法

- (1) 全試合トーナメント方式とし、各試合は7回戦とする。
- (2) 3回以降10点差以上、5回以降7点差以上得点差のある場合は、コールドゲームとする。
- (3) 7回終了時に同点の場合は、タイブレークを行い、勝敗が決するまで行う。
[タイブレーク]
継続打順で、前回の最終打者を1塁走者とし、2塁、3塁の走者は順次前の打者とする。
すなわち、無死満塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。
- (4) 暗黒・降雨などにより、試合続行が不可能なときの試合成立は5回とする。それ以前もしくは同点の場合はノーゲームとする。
- (5) 決勝の開始時刻は、準決勝第2試合終了のち50分後とする。

9. 大会特別規定及び競技上の注意事項

- (1) 大会に参加するにあたって
 - *選手の頭髪・身だしなみは中学生らしく、スポーツマンとしての自覚をもって大会に参加する。装飾品などを身につけないこと。
 - *マナーを守った応援となるように、監督及び部長が責任をもつ。
 - *試合を行っているチームの行為が原因で、試合続行が不可能となるようなトラブルが発生した場合は、起こしたチームが責任を負うべきであるから、そのチームを敗者とする。
 - *天候等による大会の実施の可否及び試合の進行については、各チームが会場責任者に問い合わせる。当日の実施・中止等の判断は、大会本部が会場責任者等と相談の上、朝6時に行う。
 - *大会運営上、4回戦以降の試合で校旗の掲揚と校歌の演奏を行う。出場校は、必ず校旗と歌詞入りの校歌CD(1番のみ)を準備し会場に持参すること。
- (2) ベンチ入りの規定及び会場でのマナーについて
 - *ベンチ入りできる者は、学校長、監督、部長、コーチ、選手20名以内とする。いずれも、登録を完了している者に限る。
 - *スパイクの使用可能な場所について事前に確認する。
 - *ゴミは各チームで持ち帰る。応援席も同様とする。
 - *選手及び顧問は、球場入りに際し身だしなみを整える。
- (3) 試合をスピーディーにすすめるために
 - *無用なタイムを慎む。
 - *攻守交代はかけ足で行う。
 - *守備のボール回しは定位置付近で行う。試合進行上禁止することがある。
 - *攻守交代のときは、投手またはプレートに近い野手がボールをプレート近くに置く。
 - *先頭打者とランナーコーチは、ミーティングに参加せず、直ちに所定の場所につく。
 - *打者はむやみに打者席を外さず、サインは打者席から見る。
 - *得点時などに握手を求めるためにグラウンドに出ない。
- (4) 危険防止のために
 - *足を上げてのスライディングは禁止し、実際に妨害になった場合は走者をアウトとする。
 - *バットリング、鉄棒、マスコットパッド等を球場に持ち込むことを禁止する。
 - *捕手はレガース・プロテクター・ヘルメット・スロートガード付きマスクを着用する。
投球練習の際（ブルペンでの練習を含む）、捕手はマスクを着用しなければならない。
ヘルメット、プロテクター、レガースについては着用することが望ましい。
 - *打者・走者・次打者・ランナーコーチは、両耳付きのヘルメットを着用する。
 - *試合中、次打者以外の選手が素振りを行う場合は、イニングの交代の合間とする。ただし、ベンチ前で行うものとし、安全には十分に留意すること。

(5) 試合前

- * チームは試合開始予定時刻の1時間前までに球場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。
- * ベンチは、組合せの番号の若い方を1塁側とする。
- * 第1試合のメンバー用紙交換及び攻守決定は、試合開始40分前とする。第2試合以降は、前試合の4回終了時点とする。監督と主将は、メンバー用紙を4部持参し本部前に集合する。
- * 用具・装具については、試合前に審判員の確認に応じる。
- * シートノックについては以下の通りとする。
 - ① 4回戦以降に行い、時間は5分以内とする。状況によっては行わない場合もある。
 - ② 後攻チームが先に行う。
 - ③ ノッカーは選手と同一のユニフォーム、スパイクを着用する。
 - ④ 背番号をつけた選手以外に5名の補助員をつけることができる。
 - ⑤ シートノックは守備練習のためであるので、マウンド及びマウンド付近には入らない。

(6) 試合中

- * イニング交代の際、次の攻撃の先頭打者はネクストバッターサークルで待ち、相手投手の投球練習が終わり次第速やかに打席に入ること。(相手投手の投球練習中には打席付近に立たない。)
- * 次打者は、ネクストバッターサークル上では座らない。また、投球に合わせて素振りは禁止する。
- * 選手交代の申し出は監督が行う。
- * 監督はタイムを取り、グラウンドに出て指示を与えることができる。ただし、ファールラインを超えてはならない。
- * 申告敬遠について
 - ・ 敬遠の申告は監督のみが行うことができる。
 - ・ 守備側の監督は、球審に敬遠する意思を伝えると、投手が捕手にボールを投げなくとも打者を四球とすることができる。
 - ・ 敬遠の申告は、打者の打席前だけではなく打席途中でも可能であり、監督が申告した時点で敬遠四球となる。
- * 規則適用上の疑義に対しては、当事者または主将が直接質問することができる。
- * 走者・ランナーコーチ・ベンチから、球種などを知らせることを禁止する。
- * メガホンは監督のみ使用することができる。
- * 投手の準備投球は、初回と交代時が7球以内、他は3球以内とし、時間は1分以内とする。ただし、状況により審判の判断で考慮する場合もある。
- * 突発事故が起きて臨時代走を用いたい場合は球審に申し出る。審判団が必要と認めた場合は許可する。臨時代走は、投手と捕手を除く前位打者とする。
- * タイムの制限（公認野球規則より抜粋）
 - ・ 監督またはコーチが、投手のところへ行く回数の制限について
監督が、同一イニングに同一投手のところへ二度目に行くか、行ったとみなされた場合（伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところへ行かせた場合）は、投手は自動的に交代しなければならない。なお、他の守備についたときは、同一イニングには再び投手に戻れない。
 - ・ 守備側のタイムの制限について
捕手または内野手が、一試合に投手の所へ行ける回数を三度以内とする。なお、延長戦（特別延長戦も含む）となった場合は、二イニングスに一度行くことができる。
野手（捕手を含む）が投手の所へいった場合、そこへ監督またはコーチが行けば、双方一度として数える。投手交代の場合は、その回数には含まない。
- * 次の規則は、本大会では適用しない。
野球規則 3.03 原注（1イニングに投手以外の守備に、2度以上つくことは許されない。）

(7) 試合後

- * 試合終了のあいさつをもってすべてを終了とし、速やかにベンチを空ける。
- * 各チームの監督は、試合終了後本部にて、次の試合の日程や連絡事項の確認をする。
- * 準決勝第2試合終了後より決勝戦開始までは、50分間の休憩時間を確保する。

(8) その他

- * テーピングをする場合、露出する部分については事前に審判団に申し出る。
なお、投手が指先へのテーピングをすることは禁止する。

*応援席では、次のことを守って応援する。

- ①相手チームの選手が不快な思いをするような応援や試合を妨害するような応援は禁止する。
- ②個人名を書いた横断幕やのぼりは禁止する。
- ③吹奏楽や太鼓などの鳴り物による応援は禁止する。

*監督・部長・コーチの服装については、次の通りとする。

- ①監督・コーチは選手と同じユニフォームを着用する。監督は背番号30番をつけること
ただし、部長・コーチは背番号を付けないものとする。シューズ（スパイク）は黒色とする。
- ②部長は監督と同じか、平服（白のワイシャツまたは白のポロシャツなど）に選手と同一の帽子とする。

*ユニフォームはしっかり着用する。

- ①肩の部分をたくし上げない。
- ②ベルトはしっかりしめる。
- ③ズボンの裾は、ストッキングが上部まで見えるようにする。
- ④ストッキングはローカット（アーチ型）のものとする。

*4回戦までは大会参加チーム全てに当日の審判割り当てがある。その役割もしっかりと果たす。

*大会中の負傷・疾病については、応急処置のみ行う。また、本大会は独立行政法人日本スポーツ振興センター法の定めを適用する。

10. 用具・装具の規定（平成30年4月）

滋賀県中学校体育連盟野球専門部が主催する各種中学校野球大会に参加するすべての参加者の用具に適用する。

ボール

- (1) 使用するボールは、(財)全日本軟式野球連盟公認球B号とする。

バット

- (1) 使用できるバットは木製、金属製又はカーボンとする。
- (2) 金属製及びカーボン製は原則としてJ・S・B・Bのマークをつけた全日本軟式野球連盟公認のものを使用する。
- (3) 木製バットについては一本の木材で作ったものであること。竹片、木片の接合バットの使用は認めない。
- (4) 明らかなへこみや亀裂の認められるものは使用できない。
- (5) 金属製及びカーボン製バットの握りの部分については、市販のグリップテープを使用する。グリップテープにはがれ、磨耗、傷等があるものや明らかに止まっていないものは使用できない。

ユニフォーム

- (1) 同一チームの監督、コーチ、選手は同一のユニフォームを着用する。選手のユニフォームには背番号をつけ、背番号の色は黒又は紺とする。
- (2) 色合いは白又はアイボリーとし、全体にわたる縞模様、ツートンカラー（上着とズボンの色合いが異なるもの）については認めない。
- (3) ノースリーブの上着は認めない。
- (4) ロングタイプ（裾が極端に絞ったもの）、ストレートタイプ（裾幅の広いもの）のズボンは使用できない。
- (5) ユニフォームのデザインを変更する際、制限規定に触れる可能性がある場合は、事前に審判部長に確認すること。事前の確認を怠り、制限規定違反のユニフォームを使用した場合は、直ちに使用を禁止することがある。
- (6) ユニフォームには、校名、頭文字、校章、県名又は地方名の表記のみに限る。
- (7) 着用時には、袖をまくり上げたり、ズボンの裾を伸ばしたりしてはいけない。

アンダーシャツ、ストッキング

- (1) アンダーシャツの襟部分、ストッキングには、校名、校章、商標等一切表記しない。（ただし、最初からついているメーカー名、商標についてはこの限りではない。）
- (2) ストッキングは、アーチ型の切れ込みのローカットタイプで、アンダーソックスと重ねて着用する。レギュラーカット、ハイカットタイプのストッキングは使用しない。
- (3) 背中等に文字や文章等のプリントのあるシャツをアンダーシャツ代わりにしない。

スパイク

- (1) スパイクの表面は黒一色とし、エナメルは使用できない。
- (2) ハイカット、ミドルカットタイプのスパイクを使用してもかまわない。

- (3) 校名、校章等の表記は出来ない。また、ベロ皮部分に氏名、番号等を付けることは禁止する(メーカー名、商標はこの限りでない)。

グラブ、ミット

- (1) 公認野球規則 1・12、1・13、1・14、1・15 に準ずる。原色に近く、華美な色のカラーグラブ、ミットの使用は控える。但し、黒色は使用してもかまわない。
- (2) 投手以外の野手のグラブのしめ紐は、本体色と同系色とする。ただし、黒と茶系色のしめ紐に限っては本体色にかかわらず使用できる。
- (3) しめ紐は長いままにせず、5 cm以内とする。
- (4) 個人名、番号、その他の文字を刺繍する事は禁止する。

ヘルメット

- (1) 打者、次打者、走者は全日本軟式野球連盟(J・S・B・B)公認のヘルメットを使用すること。色彩は一色で両耳付きのものを着用すること。
- (2) ランナーコーチ2名も打者用ヘルメットを着用すること。
- (3) バットボーイ、ボールボーイは危険防止のためにヘルメットを着用すること。
- (4) 校名、頭文字、校章を前頭部一カ所に表示できる。後頭部、側頭部への番号表記も認める。
- (5) 亀裂のあるものや内側の保護パッドがついていない又は固定されていないものは使用できない。

捕手の装具

- (1) 捕手は全日本軟式野球連盟(J・S・B・B)公認のマスク、スロートガード、ヘルメット、プロテクター、レガースを必ず着用すること。但し、スロートガード一体式の場合は、スロートガードを装着しなくて良い。急所カップは使用すること
- (2) 色彩は、単色(黒色、紺色)が望ましい。
- (3) 捕手用具に、亀裂、破損のあるものは使用できない。
- (4) 膝痛軽減用パッドの使用を認める。
- (5) 投球練習の際(ブルペンでの練習を含む)、捕手はマスクを着用しなければならない。ヘルメット、プロテクター、レガースについては着用することが望ましい。

手袋、リストバンド

- (1) 野球専用のもので、打者・走者・野手の守備時に使用しても良い。但し、投手の守備時での使用は認めない。
- (2) 手袋の形状は、手首までのものとし、リストバンドを兼ねたようなものは使用できない。
- (3) 色彩は、白色、黒色一色とする。ワンポイントの商標は同色とみなす。
- (4) リストバンドは使用できない。また、サポーター(手首や指を固定・保護する目的の物)の使用は、医療目的に限り、試合前に大会本部に申し出て許可を得る。

その他

- (1) レッグガード、エルボーガードの使用は認めない。
- (2) スプレー式滑り止めは使用しない。
- (3) マスコットバット、鉄棒及びバットリングの球場内への持ち込みを禁止する。
- (4) サングラスの使用は原則として認めない。
- (5) グラウンドコートは華美なものを避け原則として野球用のものを使用することが望ましい。
- (6) 装飾品(ネックレス、ブレスレット、ミサンガ等)は禁止する。様々な健康効果をうたった装具、本規定にはない野球装具についても使用を禁止する。

11. 表彰

- (1) 優勝校には、賞状・優勝旗・優勝杯を授与する。
- (2) 準優勝校には、賞状・準優勝盾を授与する。
- (3) 3位校2校には、賞状を授与する。
- (4) フェアプレー賞1チームには、賞状と激励品を授与する。
(ベスト8より、専門部役員の投票により選出する。なお、該当校なしの場合もある。)

大会会場及び試合時間予定

以下の会場を使用予定している。ただし、雨天などにより試合日程の変更がありうる。

◆大会会場

開催 月日	2 1	2 2	2 3	2 4	2 5	2 6	2 7	2 8	2 9	3 0
曜日	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
試合数	2 3	2 6	6	予 備 日	6	8	予 備 日	4	2	予 備 日
会場数	7	7	2		6	2		1	1	
大会○日目	1	2	3		4	5		6	7	
○回戦	1	1・2	2		3	4		準々	準決・決	
草津グリーン	◎	◎	▲	▲	◎	◎	▲	◎	◎	▲
守山市民	◎	◎	▲	休み	◎	▲				
新旭	◎	◎	▲	▲	▲					
甲賀市民	◎	◎	◎	▲	◎	◎	▲			
近江八幡市民	◎	◎	▲	▲	◎	▲				
荒神山	◎	◎	◎	▲	◎	▲				
浅井	◎	◎	▲	▲	◎	▲				

◎使用、▲は予備。

各会場名は、一部略称。

◇試合開始時間(1回戦から3回戦まで)

◆予定試合	開始時間(1日4試合)	開始時間(1日3試合)	開始時間(1日2試合)
◆第1試合	9時00分	9時00分	9時00分
◆第2試合	10時40分	10時40分	10時40分
◆第3試合	12時20分	12時20分	
◆第4試合	14時00分		

※試合の開始時間については開始予定時間より30分程度早めることがある。また、天候の悪化が予測される場合は、更に早めることがある。

◇試合開始時間(4回戦以降) シートロックを行うため

◆予定試合	開始時間(1日4試合)	開始時間(1日3試合)	開始時間(1日2試合)
◆第1試合	9時00分	9時00分	9時00分
◆第2試合	10時50分	10時50分	10時50分
◆第3試合	12時40分	12時40分	
◆第4試合	14時30分		

※準決勝第2試合終了後より決勝戦開始までは、50分間の休憩時間を確保する。

※試合の開始時間については開始予定時間より30分程度早めることがある。また、天候の悪化が予測される場合は、更に早めることがある。

大会運営上のお願い

本大会を円滑に運営するため、次のことを各校に願います。また、会場責任校を決め、会場責任者は、実施の有無を大会委員長と連絡を取り合って決定する。実施当日、一日大会運営に参加する。会場責任校の野球部員が、補助役員として大会運営に参加する。

1. 各校は、大会運営のため、次のことをする。

- (1) 大会 1 回戦から 2 回戦までは、各校 1 名以上の顧問が大会運営に関わり、運営役員・審判員を務める。審判割り当ては、別記のものに従う。
- (2) 大会運営上、役員の負担を減らすため、役員・審判員は、各自で水分を準備する。試合中の審判員の水分補給については、3 回・5 回をめぐり、主審の判断で摂る。
- (3) 大会運営補助員として 10 名を選出し、自校の試合後と次の試合のノック終了後、グラウンド整備・ライン引きなど試合準備に専念させる。
- (4) 大会運営補助員としてベンチ入り選手以外から 3 名を選出し、自校の試合中ボール係として専念させる。前述(3)のグラウンド整備員と兼ねてもよい。部員数等によって不可能な場合は、会場責任者に事前に申し出て、指示に従う。

2. 試合校は、大会運営のため、次のことをする。

- (1) ボール係を、ベンチ入り選手以外から原則として 3 名出し、専属させる。部員数により、不可能な場合は、会場責任者に申し出て指示に従う。
- (2) 試合開始までの流れを次のように行う。

前の試合終了



試合終了の両校……◇グラウンド整備(試合を終えた両校 5 名～10 名)をし、試合準備を完成させる。次の試合の審判員が確認。

◇他の者は速やかにベンチを空ける。ただし、その日の試合の最終試合のチームはベンチを清掃してから退出すること。

試合前の両校……◇ベンチ入り。

ブルペン・グラウンド整備をしないファールグラウンドを使ってキャチボール程度のアップする。

3. 会場責任校・補助役員は、大会運営のため、次のこととする。

◎会場校補助役員

- (1) 第 1 試合のできる準備(グラウンド整備・ライン引き・ベンチの清掃など)
- (2) 試合中に、B・S・Oのカウントを掲示
- (3) 最終試合終了後、後始末の確認・協力

◎会場責任者

会場調整・開催日の競技運営・他会場との連絡等を行う。